

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520318

研究課題名 (和文) 朝鮮総督府の言語政策と言語教育が現代韓国語の形成に及ぼした影響に関する実証的研究

研究課題名 (英文) A study on the influence of the language policy and education of the Japanese government-general of Chosun(朝鮮) on the modern Korean language

研究代表者

陳 南澤 (JIN NAMTAEK)

岡山大学・外国語教育センター・准教授

研究者番号：00403478

研究分野：言語学、韓国語学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：韓国語、言語政策、朝鮮総督府、コーパス

1. 研究計画の概要

本研究では朝鮮総督府の言語政策及び当時の言語教育が現代韓国語の形成に及ぼした影響を分析する。

- (1) 1890 年代～1945 年代の文献のコーパスの分析を通して実証的に検討し、現代韓国語の形成過程を明らかにする。
- (2) 言語政策と教育を担当していた朝鮮総督府学務局の文書資料を発掘し、当時の朝鮮語教育の実態とその影響、言語政策の決定過程(言語政策の決定における韓国人学者の役割も含めて調査)とその成果などを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

平成 18 年度から平成 20 年度にかけて、朝鮮総督府資料の発掘と確認作業と開花期から 1930 年代におけるコーパスの分析を行なった。

- (1) 開花期 (19 世紀末～20 世紀始め) における韓国語の綴字法と日本の植民地初期の韓国語の綴字法の実態に関しては、キリスト教文書の『新約全書』(1900)と『演経座談』(1923)におけるハングル綴字法を計量的に分析し、当時の韓国のハングル綴字法に大きな影響を及ぼしていたキリスト教文書のハングル綴字法の実態が分かった。朝鮮総督府の「普通学校用諺文綴字法」(1912 年)は、キリスト教文書のハングル綴字法より、幾つか進んでいる点もみられるが、その適用範囲には限度があり、キリスト教の文書には聖書綴字法と呼ばれる綴字法が使われ、『新約全書』(1900)と『演経座談』(1923)のハ

ングル綴字法は「普通学校用諺文綴字法」(1912 年)の規定とは異なる点が多いことが分かった。

- (2) また、韓国語で発刊されたキリスト教の雑誌である『神学月報』(1900-1909)におけるハングル綴字法を分析し、当時ハングル綴字法に大きな影響を及ぼしていたキリスト教文献におけるハングル綴字法の実態と変化を概観した。『神学月報』は「・」や口蓋音の表記などでキリスト教文献におけるハングル綴字法の変遷過程をよく表している。このような表記法は朝鮮総督府の「普通学校用諺文綴字法」(1912 年)の制定にも影響を及ぼしたと考えられる。
- (3) その他、新聞と教科書などを時代別に分析しているが、このような文献の分析により、韓国語の綴字法の変遷過程と朝鮮総督府の影響などが明らかになると考えられる。

3. 現在までの達成度

- ② 概ね順調に進展している。

コーパスを用いた分析においては予定通りに達成しているが、朝鮮総督府の新たな資料の発掘にはもっと時間がかかると思われる。

4. 今後の研究の推進方策

今後も新聞・小説・雑誌・聖書・教科書など、より多くの文献を時代別に分析し、韓国語の綴字法の変遷過程を計量的・統計的に考察していきたい。なお、朝鮮総督府の資料に関し

てもアメリカの Yenching 図書館も含めて調査していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

陳南溼、キリスト教文書のハングル綴字法と朝鮮総督府のハングル綴字法規定、大学教育研究紀要、第2号、63-71、2006、査読無

陳南溼、『神学月報』(1900-1909)のハングル綴字法について、大学教育研究紀要、第4号、65-73、2008、査読無

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕